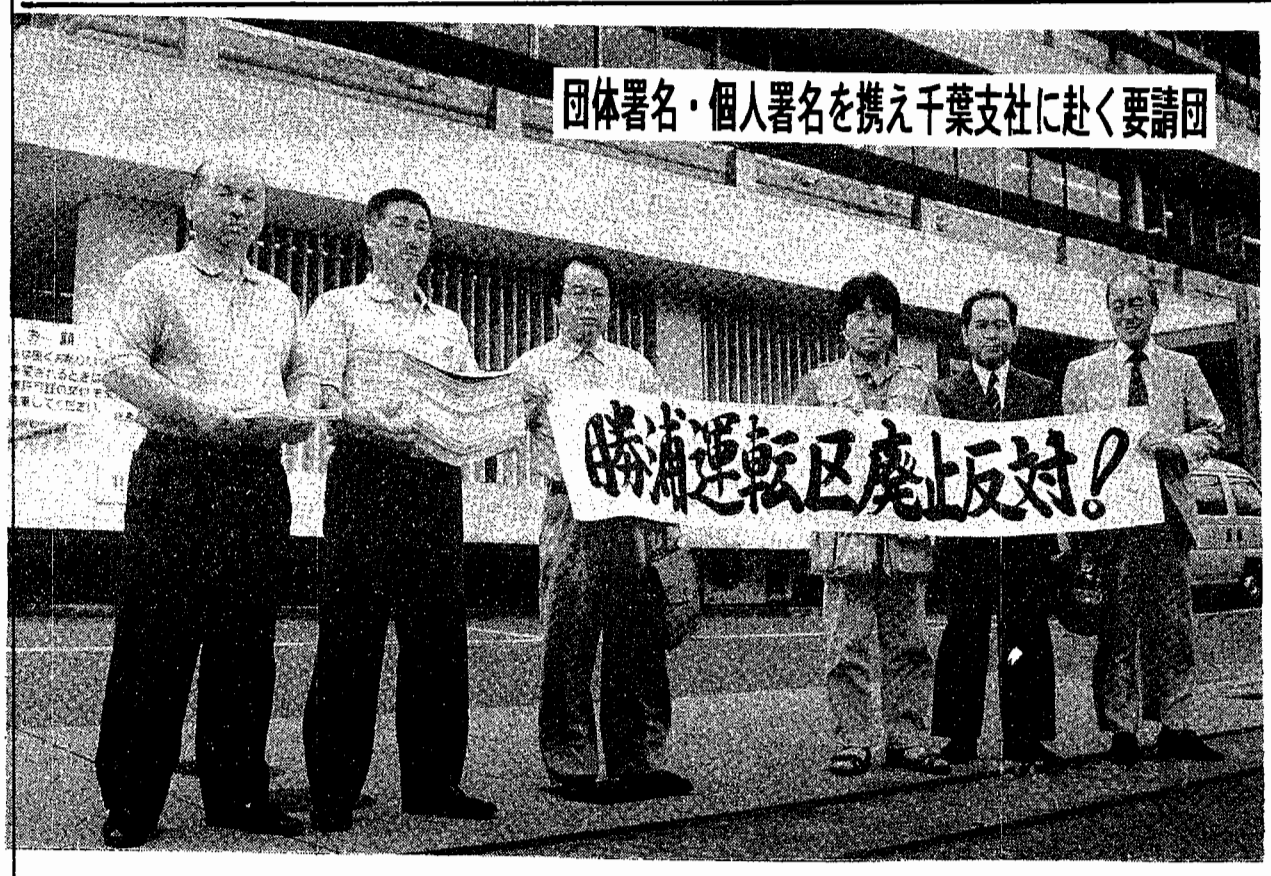
日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）043（222）7207番
95.9.4 No.4253

千葉支社に署名提出!!



JRよ、一万六千名の声を聞け

八月三一日、勝浦運転区の存続を求めて、千葉支社に対する要請行動が行なわれた。要請団は、水野市議会議員をはじめ、荒井大原町議会議員、成瀬高教組夷隅支部長、勝浦市民、そして動労千葉から勝浦支部高梨副支部長、本部田中書記長。

要請団は、この間、勝浦支部を先頭に、不眠不休の努力で集めた、一万六千二百七十一名の個人署名、百五十二の団体署名を携えて、JR千葉支社に「勝浦運転区存続、ローカル線切り捨て反対」を強く求めた。とくに、勝浦市民の署名は、この日までにさらに増え、一万三千四百九十四名に達した。

また、要請行動の後、引き続き勝浦運転区廃止計画の撤回を求めて団体交渉が行なわれた。

慇懃無礼な態度に要請団もあきれはてる！

この日の要請に対して、千葉支社からは、岡沢広報担当課長、真保輸送課長、小川運行担当課長、吉原輸送課長代理が対応した。しかし、千葉支社の態度は、要請が始まるなり、「言いたいことだけ言ったらさっさと帰れ」と言わんばかりの対応である。要請団は、それぞれの立場から、この間のJRの経営姿勢について支社を追及し、様々な要請を行なった。しかし、千葉支社は、通りいっぺんの形ばかりの回答をしたかと思うと、「それでは以上ということで」といきなり席を立とうとするのだ。当然にも、要請団からの疑問・質問が次々とだされる。ところが、最後などは、水野さんが、「千葉支社が、手土産をもって特定の一部議員のところを回ったことについてだが、このようなことは市議会に対する介入だとは思わないのか？」と質している最中、「予定がありますので今日のところはこれで……。」と一方的に席をたってしまう始末なのだ。

要請行動を終えた後の懇談のなかでも、参加者全員が、「ひどいですね」「JRという会社はどうなっちゃっているんですか？」「早く追い返そうというばかりだった」「常識もなくなっている」などなど、怒りを通りこえてあきれ果てたという状態であった。

署名の威力が、ズシンとこたえているぞ！

しかし、千葉支社は何故こんな余裕のない対応をするのだろうか。理由は明らかである。勝浦市民の過半数を大きく超える署名が、たちどころに集まったことがズシンときいているのである。しかも、やっていることが、何ひとつ道理のない、JR総連・革マルと結託した動労千葉潰しであるだけになおさらのことだ。運輸部長がわざわざのりこんで勝浦市議会の決議潰しをやったことも、一切の箝口令を敷いて強行しようというやり方も全てそうだ。

勝負はこれからだ。勝浦運転区廃止阻止―強制配転粉砕に向けて全力でたたかおうろう！要請行動に参加して下さった皆さん、ありがとうございました。

御宿町議選統一行動に起とう！

第一次統一行動 九月 六日～十〇日
第二次統一行動 九月十五日～十八日
集合時間 各日とも十時又は十三時を基本に何時でも可
集合場所 中村俊六郎氏自宅